奥日光の熊について

日本と奥日光の熊

奥日光はツキノワグマの生息地となっており、よく目撃されています。日本でツキノワグマは本州と、本州の南西にある四国に生息しています。

特徴とふるまい

ツキノワグマは中型で、胸の白い三日月型の模様を除くとほぼ全身が黒いです。成熟した大人は、110 から 130 センチほどの大きさで、40 から 130 キロほどの重さになります。彼らは木登りが得意です。また、人間よりも格段に速い時速 40 から 50 キロほどで走ることができます。ツキノワグマは主に雑食性です。主に植物を食べますが、死んだ動物の肉やハチなども食します。

奥日光では、熊たちは早朝と夜、また雨の降っている日、もやのかかっている日、霧の濃い日などに最も活発であるとされています。春と秋には彼らは日中に餌を探します。奥日光での冬眠は 12 月から 4 月ごろとなっていますが、彼らは時に脅かされると起きることがあります。

熊の活動の痕跡

奥日光の熊たちの存在を示す痕跡としては、木にある爪痕や、樹皮を剥いだ跡(日本語で熊剥ぎ)、熊が樹上で採餌の際に折った折れた枝の集まり(日本語で熊棚)、足跡や、フンなどがあります。

安全と大切な予防処置

奥日光では、熊の目撃レポートを事前にチェックする必要があります

熊の活動が最も活発になるのは朝や夕方の時間、そして雨や霧、曇りなどの天候時です。このようなときは、十分に注意して下さい。食べ残し、食べ物のゴミ、缶などは放置しないで下さい。熊を引き寄せることがあります。

遭遇した際の対処法

熊と遭遇することは、訪問者だけでなく熊にとっても危険な状況です。人が熊と遭遇した時に危険を感じるように、熊も危険を感じています。どんな状況下でも、何よりも冷静さを保ち、熊を驚かせたり興奮させないよう、最善を尽くすことが大切です。

1. 熊を驚かせない

突然音を出す、逃げる、写真を撮る、懐中電灯を向けるなどして、熊を驚かせないようにしましょう。できる限り静かにしましょう。

2. その場を立ち去る

危険を避ける最善の方法は、すぐさま静かにその場を立ち去ることですが、この際、熊を驚かせる可能性があるため、走ってはいけません。もし熊との距離が近い場合には、熊に背中を向けずに、後ろ向きに動きゆつくりと距離を取りましょう。

3. 首と頭を隠し、守る

その場を立ち去ることが不可能な場合には、大きな岩や倒木の下に隠れるべきです。腕で、首と頭を守り、ボールのように丸くなり地面に伏せましょう。熊は時速 40-50 キロで走り、木登りもでき、泳ぎも得意です。人間が逃げられる速さではありません。

4. 子熊から距離をとる

子熊はとても可愛らしいですが、常に母熊が近くにおり、攻撃的に子を守ろうとします。子熊にでくわしたら、その場を静かに立ち去りましょう。

奥日光における熊の役割

奥日光の熊は、この地域の生態系にとってとても重要な役割を果たしています。熊の目撃情報は少なくありませんが、人間が怪我をする事故はとても少ないです。それでも訪問者のみなさまには、熊から身を守るための予防処置を講じ、熊の存在に敬意を持つことを強くオススメします。そうすることで、熊と人間は平和に共存することができるのです。